



長岡で輝く

長岡市地域おこし協力隊
卒業後も続く挑戦



Vol.1

地域おこし協力隊の任務を終え、長岡で暮らしながら活動続けるOB・OGたち。それぞれの仕事場で近況を語ってくれました。

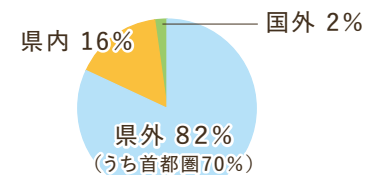
地域おこし協力隊とは

都市地域から過疎地域等に住民票を移し、最大3年の任期で地域の課題や活性化に従事してもらい、定住促進を図る取り組み。平成21年度に総務省が制度化、長岡市では28年度に開始し、各地で隊員が活動中です。

長岡市の協力隊状況(令和7年3月1日現在)

採用延べ人数

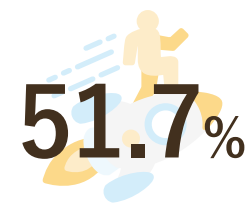
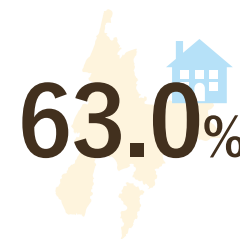
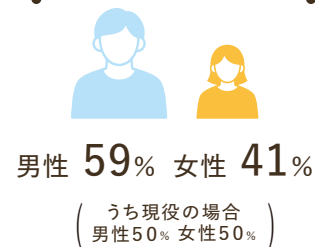
転入前住所地割合



男女比

退任後の市内定住率

退任後の市内居住起業率



主な活動内容

- 伝統技術の習得や継承
- 地元産ワインを中心とした地域物産のPR
- 企業と大学・高専の連携とコーディネート
- 地域の観光コンテンツの整理やPR
- 学生の就職支援
- 市内企業への外国人のインターンシップ
- スポーツによる地域活性化
- マッチングから採用へのコーディネート など

お問い合わせ先

長岡市地域振興戦略部 地域支援班

〒940-0062 新潟県長岡市大手通2-6 (大手通庁舎)
0258-39-2260

土地の記憶に触れ、養蚕の道へ
地域に支えられ、“ぼこさま”を育む「玉繭屋」
調理師のキャリアを生かした「米飴屋」も

こばやし ゆきこ
小林 由紀子 さん

★出身地

大阪府

★趣味

昔ながらの手仕事が好きです

★今後の予定

令和7年は7月5日(土)にトチ
オーレで四齢のお蚕さまを配布
します

協力隊の時期
R.4.3.1
↓
R.5.3.31



地元の人から譲り受けた道具も



桑を食む姿がかわいらしい蚕たち



冬仕事で「もち米飴」を製造販売

始まりは、ほんの好奇心

埼玉県と神奈川県で10年ほど、小学校や保育園の給食調理員をしていました。調理師免許も取りましたが、調理の仕事に心身が疲れ、ほかにないがでさるうと。そんなときに協力隊のを知り、応募しました。

栃尾の一之貝集落で地域おこしの仕事をする中で、土地の歴史を調べて、かつて織物が盛んで「栃尾紬」というものがあり、養蚕が行われていたと。それで、ちよつと蚕を飼ってみたいなのと思つたんです。ほんの好奇心で(笑)。

集落のために残ると決めた

蚕は生き物で、つきつきりになる期間があるため、仕事の両立が難しいと思い、協力隊は一年で卒業して養蚕に力を注ぐことにしました。県外に出ることも考えましたが、ここで出会

た人たちがとても親切で、やはり栃尾でやっていきたいと思います。家探しも手伝ってくださり、空き家だったこの家を譲り受けました。

「玉繭屋(たままゆや)」という屋号で、小さな幼虫を100頭ほど飼うことから始めました。実は私、虫が苦手で最初は蚕に触れなかつたんですよ(笑)。お世話をしていると不思議と愛着が湧くもので、なんだかわいいと思うようになってきて。小さな虫が成長して繭を作り、それが糸になる。すごく神秘的ですよ。

中越地域では蚕の幼虫を「ぼこさま」と呼びます。近所のおばあちゃんたちが「昔うちもやってたよ」と言つて蚕のエサになる桑を届けてくれたり、蚕の育て方や糸の取り方を教えてくれたり、使っていない古い道具もいただきました。ただ見に来る人もいて、この環境が本当によかつたなと感じています。

地元の小学校で蚕を育てて観察日記を作つてもらつたり、いまでは私自身が飼い方を教える

こともしているんです。

令和6年に「ぼこさま愛好会」という地域活動グループを立ち上げ、四齢のお蚕さまを有償配布して育ててもらつたりしています。

出会いと試行錯誤を重ねて

養蚕がお休みの冬の間は「もち米飴」を作ります。こちらの屋号は「米飴屋(こめあめや)」。

養蚕を学ぶために全国各地に出かける中、福島で米飴をいただいて作り方も教わつて。その後ネットで調べてオリジナルのレシピを考案しました。栃尾で出会つた方が見附市で「雨霽(うせい)」という喫茶店をやつていて、そのキッチンを使わせていただいています。材料のもち米「梅三郎糯」と水は地元産、プレーンのほかに私の好みでユズ味とシヨウガ味も作り、3種類を雨霽と道の駅などで販売しています。

これからも、地域のためにないがでさるか考
えながら試行錯誤していきたいです。

鍛冶の親方に弟子入りして8年
「越後与板打刃物」の未来を見据え
四百年余の伝統と技術をつなぐ



しまだ
島田 拓弥 さん

★出身地

神奈川県

★趣味

料理、ギター

協力隊の時期
H.29.6.1
↓
R.2.5.31

★今後の予定

削るう会大阪交野大会出席
(4月12・13日)
越後与板打刃物職人祭の工房めぐりで実演(6月7日)

地金を熱する火床(ほど)

島田さん製作のカシナ

祖父への憧れで職人に

大好きな祖父が大工で、小さいころは「じいちゃんみたいな大工になりたい」と思っていました。東京の大学で学び、卒業後は会社で勤めていましたが、祖父への憧れもあって、次第に「手に職をつけたい。職人になりたい」と思うようになってきて。協力隊の募集で鍛冶職人の仕事を見つけて「これだ!」と。

自分の腕で勝負したい

与板に移住し、最初は「越後与板打刃物匠会」の鑿(ノミ) 鍛冶さんに弟子入りして、半年後に中野鉋(カンナ) 製作所に入りました。3年間の任期終了後は、長岡市の「伝統工芸後継者育成支援事業」の補助金を受けて修業を継続し、かれこれ8年になります。

自分だけの技術というか、自分の腕で勝負できる

仕事がしたいとずっと思っていて、主にカンナと、その裏側にある「裏金」を中心に作ってきた。

ハンマーで手を叩いたり、グラインダー(回転する砥石) で指を削ったり、怪我をすることもあるし、火を使うので真夏は室温が50度になることもあって、それが本当に辛い! (笑)。大変な仕事ですが、やめたいと思ったことはないですね。道具の需要が減り、鍛冶屋も減る中で、僕が作ったカンナを道具にこだわりのある職人さんに認めてもらえたときは本当にうれしくて、やりがいを感じます。

後継者として次のステージへ

祖父母が新潟に住んでいて、よく遊びに来ていたから、大雪もそんなに気になりません。移住先を考えたとき、新潟なら、なんとかなるかなって(笑)。休みの日は近くの温泉に出かけ

て、料理もけっこう好きです。どんな素材でも工夫次第でおいしくなる。それは、鍛冶屋の仕事も一緒かなと。同じカンナでも、作る人の考え方、工夫や経験次第で変わってきます。そんなに簡単じゃない、思い通りにいかないとこるにおもしろさを感じるんです。

「越後与板打刃物」は戦国時代から450年もの歴史がありますが、現在では十数人の職人しかいません。高齢化が進み、70代から80代が中心で、引退する人も多いです。30代は僕ともうひとりだけ。与板打刃物の後継者として、親方たちからの期待も感じています。

まもなく修業が終わるので、自分の技術を磨くとともに、どのように伝統をつないでいくか考えなくては。SNSで発信したり、新しく修業する人にとって快適な環境を整えたり、いまの生活に合った新商品を考えたり、やることはたくさんありますね。

長岡の豊かな資源を発掘し テクノロジーで課題解決を図る 「未来里山技術機構」設立 ニホンミツバチの養蜂も



事業の展望を語る服部さん

服部 祥吾 さん

★ 出身地
青森県

★ 趣味
食材採集

カヤックフィッシング
日本酒、木工

★ 今後の予定

中山間地域資源を活用するための様々な取り組みを準備しています。その一環として観光ツアー事業を始めます。SNS等で情報発信を行うので、興味のある方はぜひ遊びに来てください。



スノーバイクで雪に親しむ



無双網(むそうあみ)で鴨を捕獲

未知なるものへの探究心

八戸高専（工業高等専門学校）から技大（長岡技術科学大学）に編入し、高専の先輩でもある小笠原渉先生の研究室でバイオテクノロジーを学びました。修士も含め4年間を過ごした長岡は住みやすく、技大で学んだ私に期待されていることがあると感じ、協力隊として残ることにしました。

それに、長岡はお酒もおいしいですね。子どもたちから発酵に興味があり、お酒をつくる実験をしていくくらい（笑）。目に見えないものや未知のものを探究し、どうにかして解明するのがおもしろいんです。

未利用資源の活路を探る

協力隊の任務は、未利用資源の現状や課題の調査、利活用法の考案など。たとえば寺泊漁港

から漁船に乗り、漁協の取材をして、温暖化で北上するようになった魚「エソ」など、漁獲量の3分の2が廃棄されていると知りました。骨が多くて食べづらいこともありましたが、なじみのない魚は鮮魚店が扱わないので流通しません。そこで、飲食店で未利用魚を活用した料理を作ってもらいキャンペーンをしました。農産物では枝豆。豆の数や質など規格外のもののは弾かれて4割が廃棄です。もったいないけれど、B品を流通させると値崩れするし、魚と同様、流通に課題があって、やはり現場に入らないと見えないことが多いですね。

ミツバチで山の資源を抽出

長岡全域で活動して3年の任期を終え、地域とのつながりもできたので、ここで活動を続けることにしました。起業支援補助金をいただいたのが養蜂です。最初は乙吉で敷地を

使っていいよと言ってくださる方がいて、ニホンミツバチを飼い始めました。その後、和島や越路など数力所に巣箱を置き、山の資源を抽出する方法としての養蜂。ハチミツがおいしいんですよ。これも未利用資源の活用で、蜂のための環境整備も大切です。

2024年2月に、技大で野生動物の研究をしている山本麻希先生と会社を設立しました。名称は「未来里山技術機構」、通称NEST。専門家と協働し、昔は当たり前だった循環する暮らしをテクノロジーで再構築する。懐かしい未来の実現を目指しています。

れんこん畑を荒らす鴨を捕獲したり、雪上をバイクで駆け巡る「スノーバイクツアー」を開催したり、楽しいことをいろいろ計画し、実施しています。地方はどこも似たような課題を抱えています。中山間地域を稼げるようにした事例を長岡でつくり、若い人たちが活躍できる仕事を生み出したいと思っています。

